

(車椅子・電動車椅子・座位保持装置) 評価票

ふりがな 氏名	とさ たろう 土佐 太郎	M・T・S・ H ・R 3年10月 25日生(25歳)
障害名	変形性膝関節症、脊柱管狭窄症による両下肢機能障害 手帳の障害名を記入 (1種1級) 難病に該当する場合 (疾患名:)	
車椅子の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自走型 (普通型・リクライニング式・ティルト式・リクライニング・ティルト式) <input type="checkbox"/> 手押型 (普通型・リクライニング式・ティルト式・リクライニング・ティルト式) <input type="checkbox"/> その他 ()	
電動車椅子の種類	<input type="checkbox"/> 普通型 (4.5km・6.0km) <input type="checkbox"/> 簡易型 (切り替え式・アシスト式) <input type="checkbox"/> 電動型 (リクライニング式・リフト式・ティルト式・リクライニング・ティルト式) <input type="checkbox"/> その他	
工夫が必要な場合	<input type="checkbox"/> 工夫は不要 (→具体的な工夫内容) 全体的な身体評価、特に工夫が必要となる評価はROMやMMTなど詳細に。 <input checked="" type="checkbox"/> 工夫が必要である 本人の希望ではなく、専門職として評価した内容を記入 <障害状況と車椅子の工夫内容について具体的に記入> 障害状況は、両下肢機能だけでなく、体幹機能障害もある。また、両上肢ともに、使用に関しては可動域に制限がある。本人は活動意欲も旺盛であり、日中のほとんどを車椅子上で過ごしている。車椅子操作は自分で可能であるが、上記障害のため、以下について工夫が必要。 見込まれる効果等も記入する 1 体幹保持のための工夫 シートベルトを体幹部に設けることにより、安定した座位が可能となる。 2 前座高と後座高のサイズ指定 操作性および1にも関連するが、安定した操作のためには、前座高50センチ、後座高44センチとするのが本人にとって最適と思われる。 3 ハンドリムにコーティング 手指も不自由であるため、安定した操作のために滑り止めとしてハンドリムにコーティングが必要。 あれば便利、使うかもしれないでは最低限度とならない。使う機会が少ないものは代替手段の検討も必要。本人の身体機能に合わせたものであり、介助者の都合は特別な理由がない限り含まれない。評価票は2枚でも別紙でも可。	
特記事項	付属品 (クッションの有無や材質、シートベルト、介助者用ブレーキ、杖置き等)、その他留意事項を記入 知覚麻痺があるため、褥瘡の危険がある。そのためクッションは必要。座位の安定等を勘案して、いくつか試したが、ロホクッションでないと発赤があり褥瘡を引き起こす。 種類のある物や完成用部品を使用する場合は、実際に比較検討した結果 (写真等含む) も記入すること。実際に試用している場合はその旨やサイズも記入。 座幅 38 cm 座奥行 42 cm 前座高 50 cm 後座高 44 cm 耐荷重 100 kg	
以上のおり評価します。 令和2年 6月 10日 オーダーメイドの場合は必ずサイズ指定を! 所属 訪問看護ステーション〇〇 職種 理学療法士 氏名 〇〇 〇〇 (連絡先) 088-123-4567		

身体機能的環境的に最低限必要な工夫を記入。

本体にサイズを指定する必要がある場合は記入。

個別の仕様はないとどうなるのか、あれば何ができるのかを記入。

全体的な身体評価、特に工夫が必要となる評価はROMやMMTなど詳細に。

本人の希望ではなく、専門職として評価した内容を記入

<障害状況と車椅子の工夫内容について具体的に記入>
 障害状況は、両下肢機能だけでなく、体幹機能障害もある。また、両上肢ともに、使用に関しては可動域に制限がある。本人は活動意欲も旺盛であり、日中のほとんどを車椅子上で過ごしている。車椅子操作は自分で可能であるが、上記障害のため、以下について工夫が必要。
 見込まれる効果等も記入する
 1 体幹保持のための工夫
 シートベルトを体幹部に設けることにより、安定した座位が可能となる。
 2 前座高と後座高のサイズ指定
 操作性および1にも関連するが、安定した操作のためには、前座高50センチ、後座高44センチとするのが本人にとって最適と思われる。
 3 ハンドリムにコーティング
 手指も不自由であるため、安定した操作のために滑り止めとしてハンドリムにコーティングが必要。

あれば便利、使うかもしれないでは最低限度とならない。使う機会が少ないものは代替手段の検討も必要。本人の身体機能に合わせたものであり、介助者の都合は特別な理由がない限り含まれない。評価票は2枚でも別紙でも可。

種類のある物や完成用部品を使用する場合は、実際に比較検討した結果 (写真等含む) も記入すること。実際に試用している場合はその旨やサイズも記入。